

# すべての人が安心して 歩けるまちを目指して

～「日光バリアフリーマップ」を作成しました～

くわしくは 社会福祉課 障がい福祉係 ☎21-5174・FAX21-5105

日光市は、障がいのある方が日光を訪れる機会の創出や、障害者差別解消法で求められる合理的配慮の理解と意識啓発を促すため、令和元年6月にJR日光駅・東武日光駅から世界遺産「日光の社寺」周辺までをモデル地区とした、「日光バリアフリーマップ」を作成しました。

バリアフリーマップとは、多機能トイレの位置や通路の段差情報など、障がいのある方がバリアフリー情報を知ることができるように工夫された地図のことです。

このたび、マップの精度向上を図るため、障がいのある方と障がい者支援に携わる方と協働で現地調査を行い、第2版の「日光バリアフリーマップ」が完成しました。

## マップを作成した経緯

世界遺産に登録された日光には多くの方々が訪れます。その「世界の日光」にバリアフリーマップを作ろうと、平成29年10月に「特定非営利活動法人はばたき」を中心に、障がい者福祉事業所職員や福祉団体の支援者、行政職員などの有志が集まり、日光バリアフリーマップ作成に向け準備を始めました。

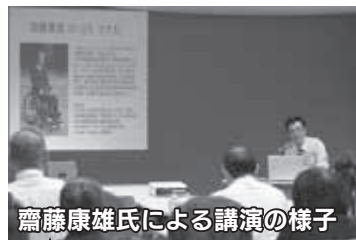
現地調査は平成30年度から始まり、その調査結果を基に初版のマップを作成しました。翌令和元年度には初版のマップの課題を踏まえ、改訂版を作成しました。この一連の作業には延べ200人を超える方の協力があり、同時に多くの方々の理解と連携を生み出すこととなりました。

## マップ作成までの流れ

### STEP ① バリアフリーセミナーの開催(平成30年・令和元年に各1回)

水族館や観光再生のプロデューサーである日本バリアフリー観光推進機構理事長中村元氏、栃木県車椅子の会会長村上八郎氏、NPO 法人自立生活センターとちぎ代表齋藤康雄氏によるセミナーを開催しました。

中村氏からは、観光面からのバリアフリーの大切さと、バリアフリーと観光誘客の両面で成功した事例を聞きました。村上氏からは、車椅子利用者の立場から、その経験を生かした当事者目線での事例発表や意見を、齋藤氏からは、改正バリアフリー法の詳細や活用方法などについての話を聞きました。



齋藤康雄氏による講演の様子

参加者の声

できるところから実現できれば…

建物のバリアよりも心のバリアを感じます

### STEP ② 現地調査の実施(平成30年に3回、令和元年に2回)

#### ①JR日光駅・東武日光駅から神橋まで▶

車椅子利用者をはじめ、障がい福祉事業所職員や社会福祉協議会、行政、さらに地元自治会など多くの方々の協力のもと、調査が行われました。

信号の待ち時間、トイレの場所や和式・洋式・多機能型の種別、スロープや歩道の幅・傾斜などを調べました。歩道のちょっとした段差や傾斜でも車椅子利用者や高齢者などに負担がかかることが分かりました。

この日は雨天でしたが、雨の降る中で障がいのある方が移動する難しさを改めて実感しました。



JR日光駅前

参加者の声

歩道の傾斜で、車椅子がまっすぐに進まず、怖かった

調査に参加して初めて社寺周辺を自分の足で歩きました

#### ②世界遺産「日光の社寺」周辺▶

参道は坂道で、砂利道や階段が多いので、「けん引式車椅子補助装置」(車椅子に装着することで、前輪を浮かしながらけん引できる器具)を使い移動しました。これを使うと介助者の負担がかなり軽減できることが分かりました。

また、数人の介助者で車椅子を持ち上げ、階段の昇降調査を行いました。車椅子に乗っている時に感じる不安感やそれを解消する方法などを確認したり、介助者の手の位置や姿勢、介助者同士の呼吸の合わせ方などを体験したりしました。



日光の社寺

### STEP ③ マップ(初版)を作成し、内容への意見をもらう(令和元年・2年)



意見交換会

バリアフリーマップ(初版)を作成しました。その後、マップの内容について、皆さんからいろいろな意見をいただきました。

- ・車椅子で行きにくい所が多いと感じた
- ・信号がある場所に段差があり、その注意表記も必要
- ・バリアフリーレベルの表記をより細かく説明すべきである
- ・傾斜角度や距離も表記する必要がある
- ・駐車場の台数や利用可能な時間も表記した方がよい
- ・トイレの種類(洋式、和式、多目的など)とその数が知りたい



## STEP ④ 令和2年3月にマップ(第2版)が完成しました!!

STEP ③の皆さんからの初版マップへの意見を基に、内容を修正し、より分かりやすく、便利なマップを完成することができました。

### ◆◆完成した日光バリアフリーマップの特徴◆◆

#### ポイント①

駐車場の台数や利用時間などを表記しています



障がい者駐車場の場所を確認できます

#### ポイント②

トイレの洋式、和式、多機能型の数が載っています



多機能型トイレの場所が分かれば安心です

#### ポイント③

バリアフリーレベル(車椅子使用時の移動難易度)を1~5に色分けして表示しています



レベル4の階段

### 最後に…

このマップを作成するにあたり、多くの方々に参加していただきました。調査を行うことで現状を把握するだけでなく、「障がいのある方にとって」「車椅子利用者にとって」どのようなことがバリアとなるのかを実感してもらうことや、地域の皆さんに声をかけたりかけられたりするなどのコミュニケーションによって、お互いにバリアに気付いてもらうという目的も達成できました。

まだまだ「障がい」や「福祉」に対する理解が不足しているように感じられます。それらに対して、多くの人に感じてもらいたい、気付いてもらいたいというメッセージも込められている「日光バリアフリーマップ」です。

マップは、問合先および、各観光課、日光市観光協会、特定非営利活動法人はばたきなどで配布している他、市ホームページでもダウンロードできますので、ご覧ください。

また、市では、合理的配慮の提供支援に係る助成制度もありますので、ぜひご利用ください。



### 合理的配慮の提供支援に係る助成制度について

障がいを理由とする差別的解消を推進し、障がいのある人もない人も、みんなが「ニッコリ」「助け合い」、「ホッ」と安心できるまちづくりのために、障がいのある方に必要な合理的配慮を提供するためにかかる費用を助成します。

制度の対象者は、事業者など民間の事業者(飲食店や小売店など)の方、自治会や広く市民が参加できるイベントなどの運営団体の方です。詳しくはお問い合わせください。

#### ◎コミュニケーションツール作成費

点字メニュー作成、コミュニケーションボード作成、チラシの音訳経費 ※上限額は5万円

#### ◎物品購入費

筆談ボード、折りたたみ式スロープ、車椅子昇降機 ※上限額は10万円

#### ◎手話通訳者・要約筆記者の派遣経費

イベント・講演会などにおいて、手話通訳者や要約筆記者を配置 ※上限額は3万円